

地ビール等製造業の概況

(平成27年度調査分)

ビール又は発泡酒の製造免許（試験製造免許を除く。）を有している者（平成27年10月1日現在）を対象にアンケート調査を行い、その集計結果を取りまとめた。

○ 調査対象期間

法人については平成27年10月1日直前終了事業年度分（1事業年度が6か月の場合は2事業年度）、個人については平成26年分とした。

○ 各表の注意事項

- (1) 各表の計数は、単位未満を四捨五入しているので、表の内容と計又は合計が一致しない場合がある。
- (2) 単位未満の計数は「0」、該当する計数のない場合は「－」と表示している。

平成28年12月

国税庁課税部酒税課

○ 調査結果の概要

I ビール製造業

(1) 製造業者数

調査対象ビール製造業者数(※1)は166者、回答者数は155者(回収率93.4%)であり、このうち151者(97.4%)が中小企業者(※2)である。

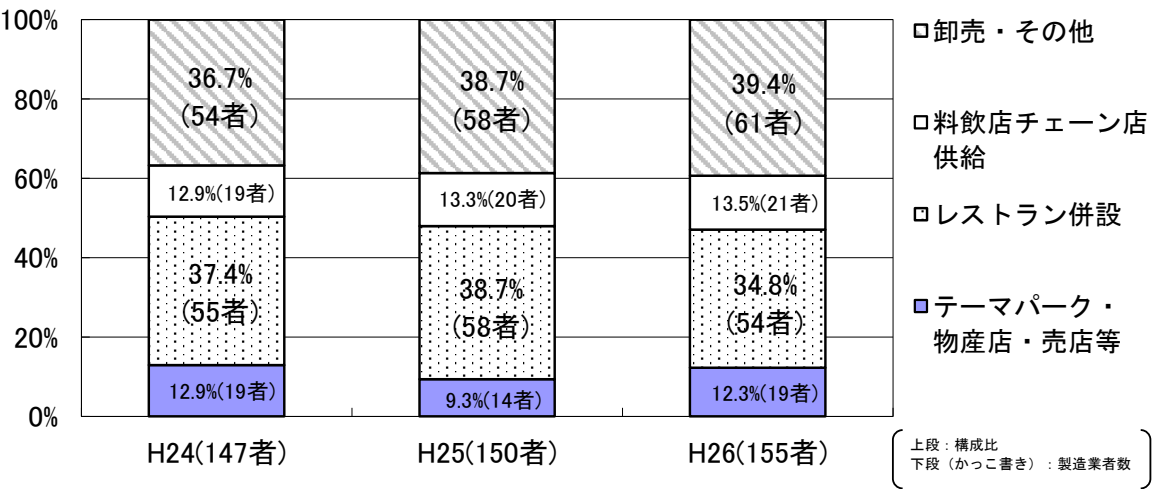
販売形態別では、卸売・その他の形態が61者(39.4%)と最も多く(図表1)、そのうち卸売形態が55者(35.5%)となっている。専門割合別では専門割合(※3)10%未満の者が58者(37.4%)であり(図表2)、製成数量規模別では100klに満たない者が123者(79.4%)となっている(図表3)。

(※1)アサヒビール株式会社、オリオンビール株式会社、麒麟麦酒株式会社、サッポロビール株式会社及びサントリービール株式会社並びに調査対象期間中に、ビールの製造及び移出の事績がない者又はビールの売上がない者については、調査対象者から除いている。

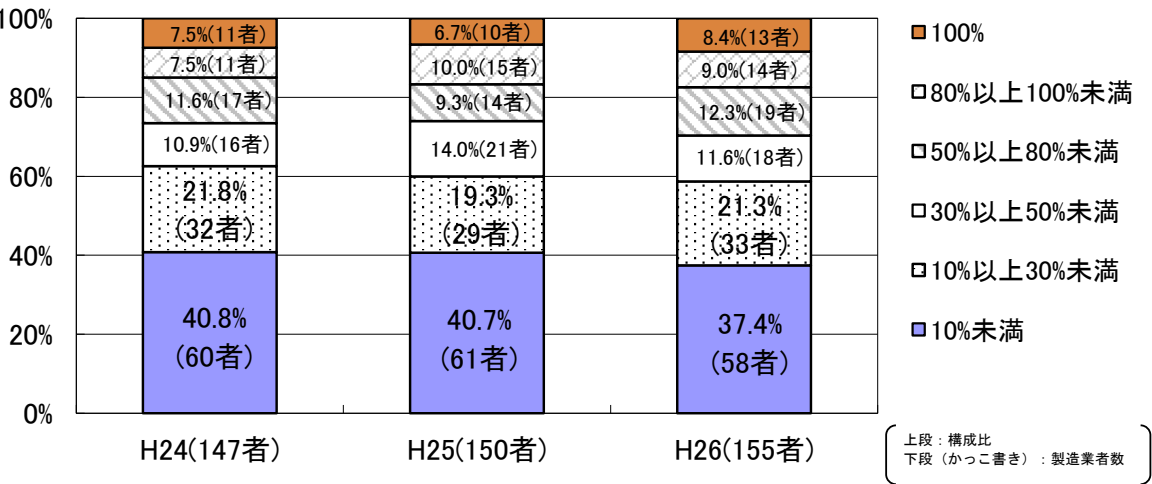
(※2)資本金3億円以下の法人並びに従業員300人以下の法人及び個人をいう(中小企業基本法第二条第一項第一号)。

(※3)総売上高に占めるビールの売上高の比率である。

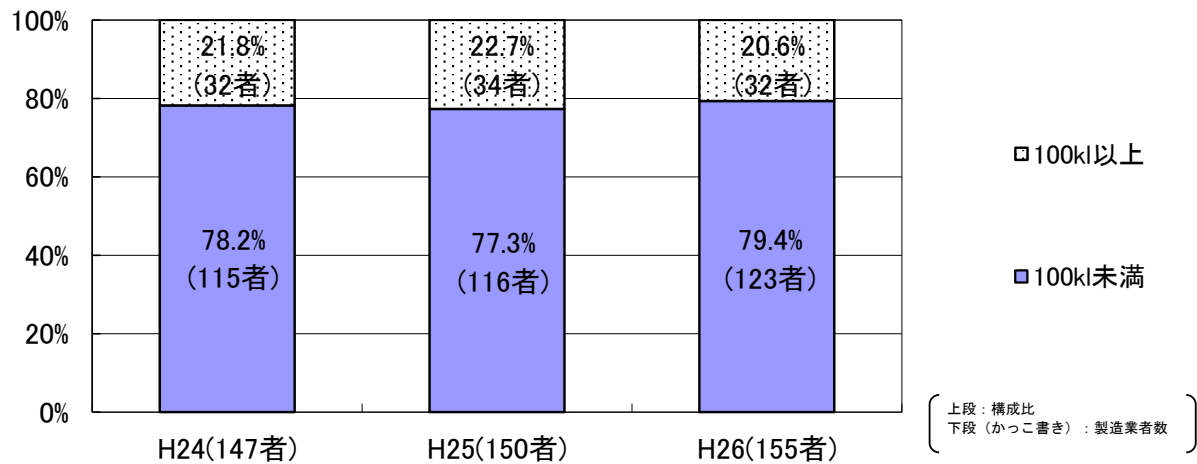
図表1 販売形態別構成比



図表2 専門割合別構成比



図表3 製成数量規模別構成比



(2) 経営状況

ビール事業の売上高は、1者当たり99.1百万円(回答者合計で15,367百万円)であり、前年と比較して、1者当たりの売上高が29.4万円(0.3%)増加している。

営業利益の額は、1者当たり7.5百万円(回答者合計で1,162百万円)であり、前年と比較して、1者当たりの営業利益が、112万円(17.6%)増加している。(図表4)

図表4 経営状況

(単位: 者、百万円)

区 分	企 業 数	売 上 高	売上総利益	営業利益
H24	147	(86.9) 12,776	(35.4) 5,197	(7.5) 1,107
H25	150	(98.8) 14,827	(37.6) 5,641	(6.4) 956
H26	155	(99.1) 15,367	(39.9) 6,180	(7.5) 1,162

(注) 1 ビール製造業に係る計数のみ掲げている。

2 かっこ書は1者平均値である。

販売形態別の1者当たりの経営状況を前年と比較すると、レストラン併設及び卸売・その他では営業利益が増加している(図表5)。

図表5 1者当たり販売形態別経営状況

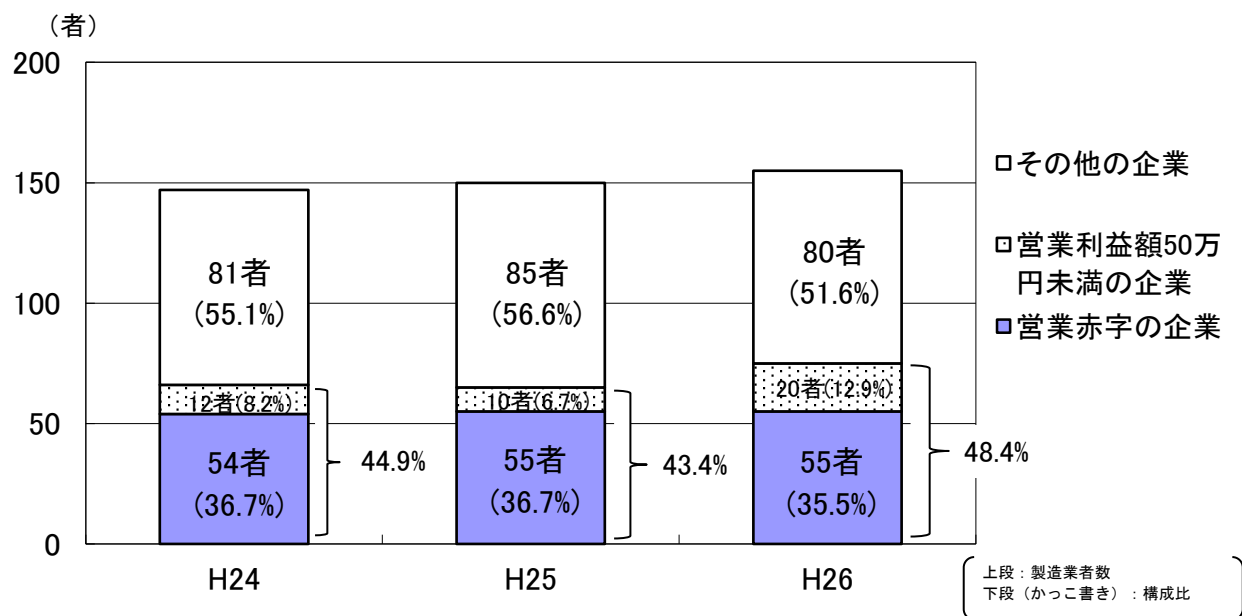
(単位:百万円)

区 分	テーマパーク・物産店・売店等					レストラン併設				
	H24	H25		H26		H24	H25		H26	
			対前年比		対前年比			対前年比		対前年比
売 上 高	37.4	45.3	121.1%	40.5	89.4%	67.2	66.8	99.4%	71.4	106.9%
売上総利益	19.9	24.4	122.6%	18.6	76.2%	37.6	34.9	92.8%	39.8	114.0%
営 業 利 益	6.9	8.5	123.2%	6.1	71.8%	8.8	10.7	121.6%	11.4	106.5%
区 分	料飲店チェーン店供給					卸売・その他				
	H24	H25		H26		H24	H25		H26	
			対前年比		対前年比			対前年比		対前年比
売 上 高	88.4	89.5	101.2%	77.6	86.7%	123.9	147.0	118.6%	149.4	101.6%
売上総利益	31.2	29.7	95.2%	26.4	88.9%	40.0	46.2	115.5%	51.2	110.8%
営 業 利 益	5.6	4.6	82.1%	4.2	91.3%	7.2	2.2	30.6%	5.6	254.5%

(注) ビール製造業に係る計数のみ掲げている。

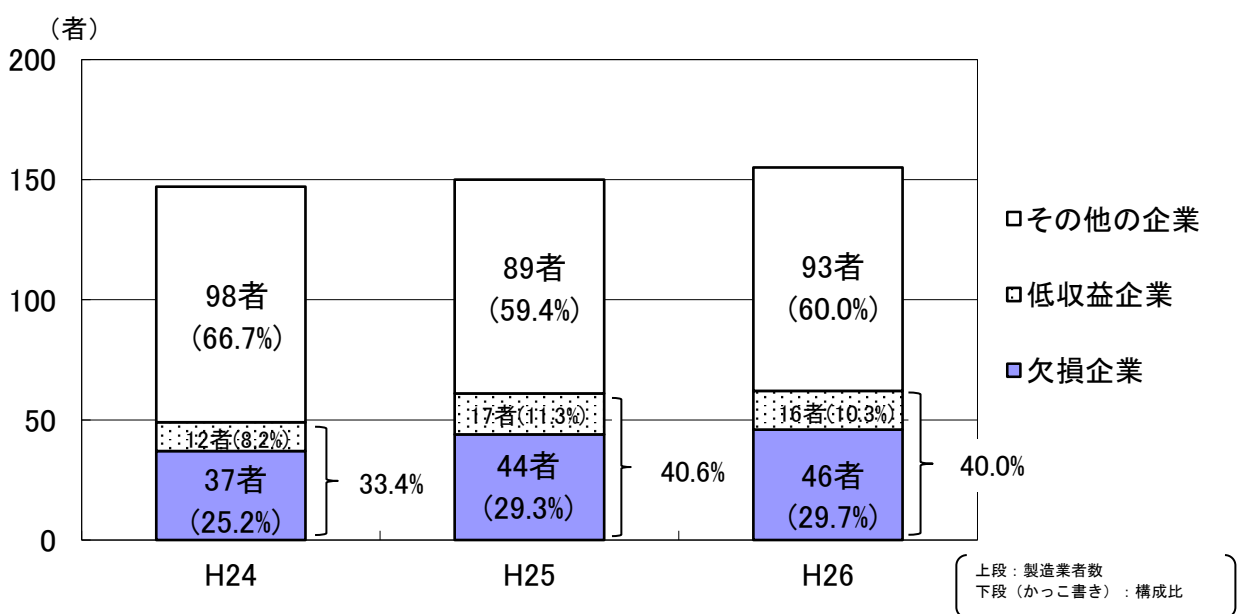
ビール事業に係る営業利益をみると、前年と比較して、営業赤字となる企業の割合が減少しており、営業利益額50万円未満の企業を含めた割合は増加している(図表6)。

図表6 ビール事業の営業赤字、営業利益額50万円未満及びその他の企業数の推移



企業全体の税引前利益(ビール事業以外を含む。)をみると、前年と比較して、企業全体に占める欠損企業及び低収益企業(税引前利益額50万円未満の企業)の合計の割合が減少している(図表7)。

図表7 欠損、低収益及びその他の企業数の推移

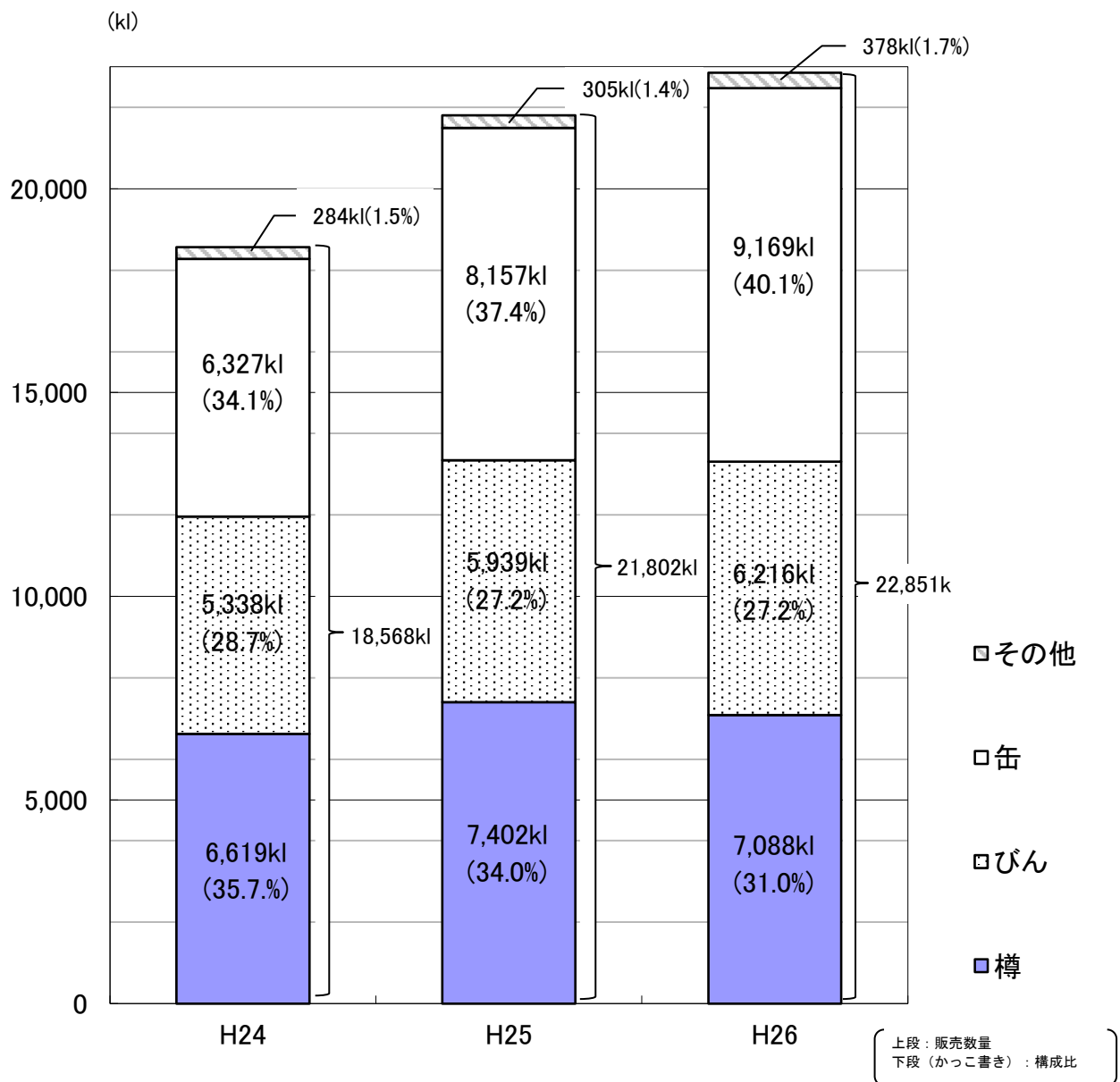


(注) その他の事業部門を含めた事業全体に係る計数である。

(3) 容器別販売状況

容器別の販売状況を見ると、缶製品が全体の40.1%と最も大きい割合を占めている(図表8)。

図表8 容器別販売数量

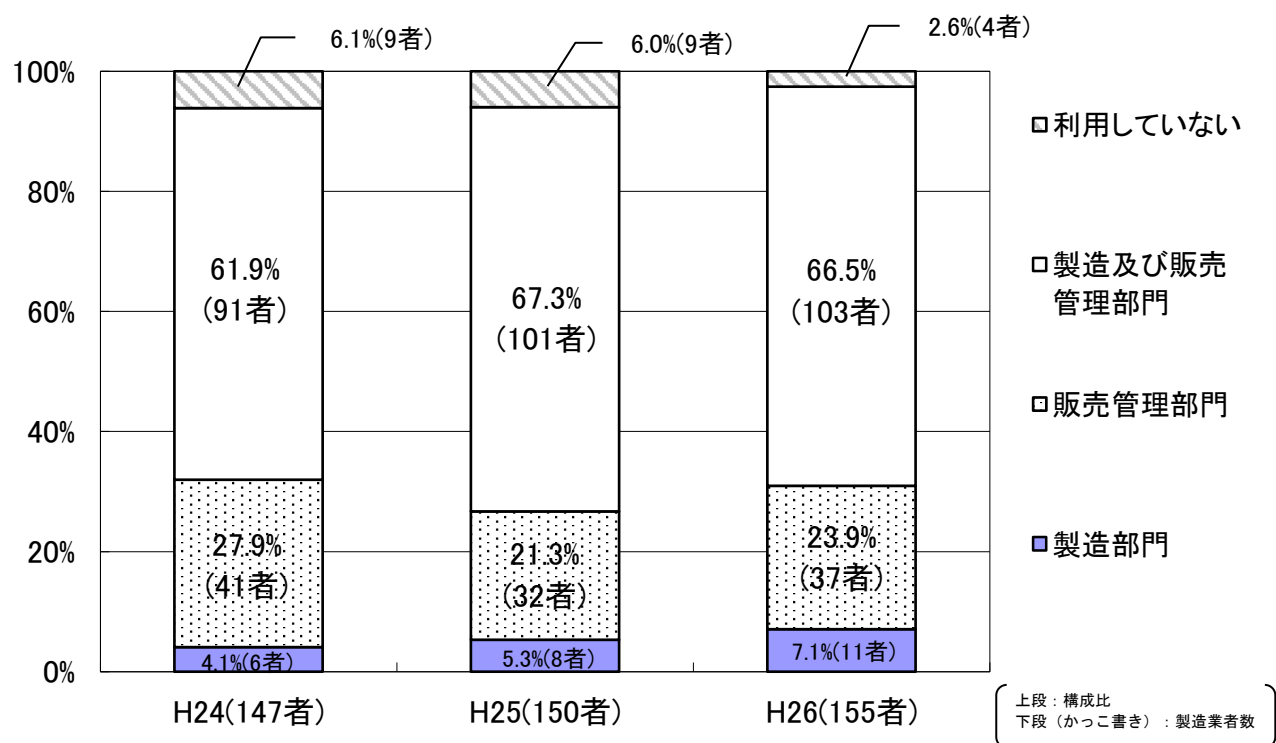


(4) 情報化の状況

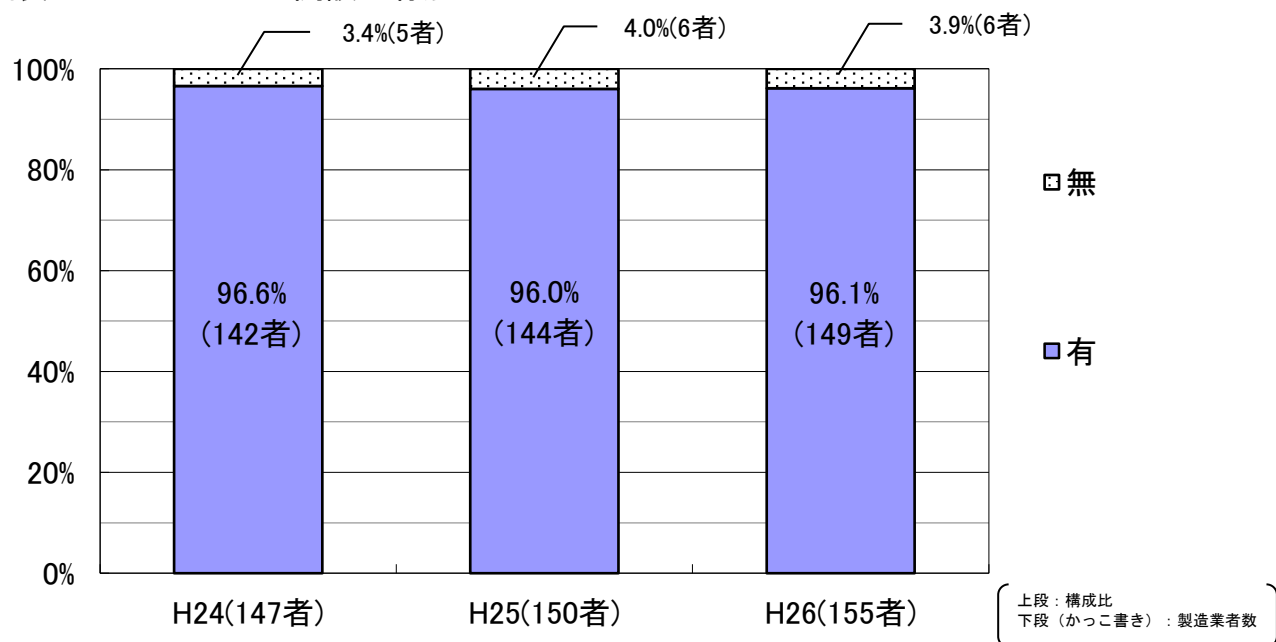
コンピューターの利用状況は、製造及び販売管理の両部門で利用している者が、全体の66.5%となっている(図表9)。

また、ホームページは、96.1%の者が開設している(図表10)。

図表9 コンピューターの利用状況



図表10 ホームページ開設の有無



Ⅱ 発泡酒製造業

(1) 製造業者数

調査対象発泡酒製造業者数(※1)は136者、回答者数は114者(回収率83.8%)であり、このうち111者(97.4%)が中小企業者(※2)である。

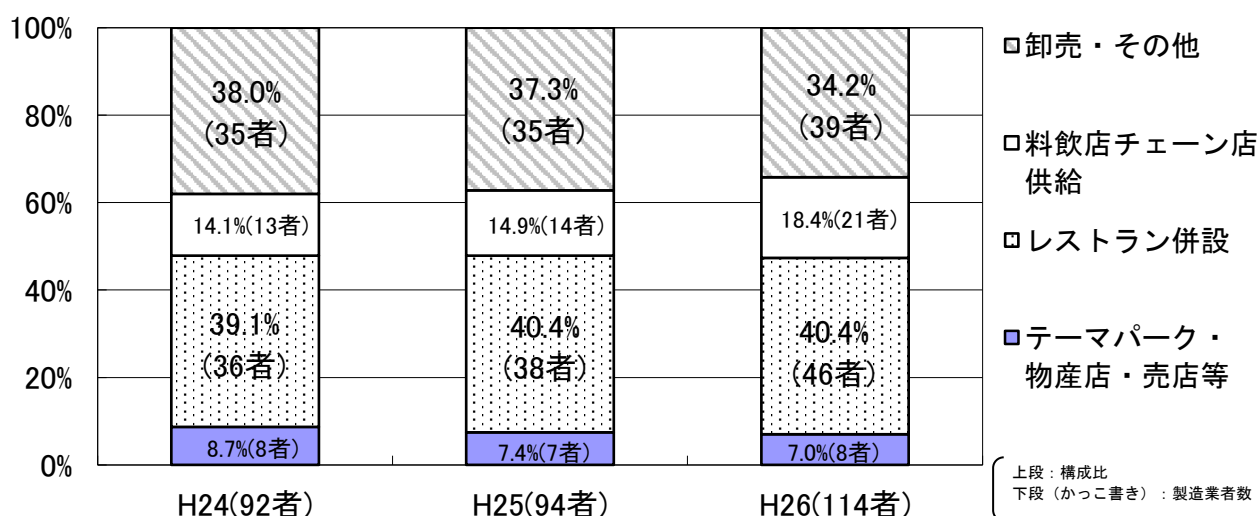
販売形態別ではレストラン併設形態が46者(40.4%)と最も多く(図表11)、専業割合別では専業割合(※3)10%未満の者が68者(59.6%)であり(図表12)、製成数量規模別では10klに満たない者が74者(64.9%)となっている(図表13)。

(※1) アサヒビール株式会社、オリオンビール株式会社、麒麟麦酒株式会社、サッポロビール株式会社及びサントリービール株式会社並びに調査対象期間中に、発泡酒の製造及び移出の事績がない者又は発泡酒の売上がない者については、調査対象者から除いている。

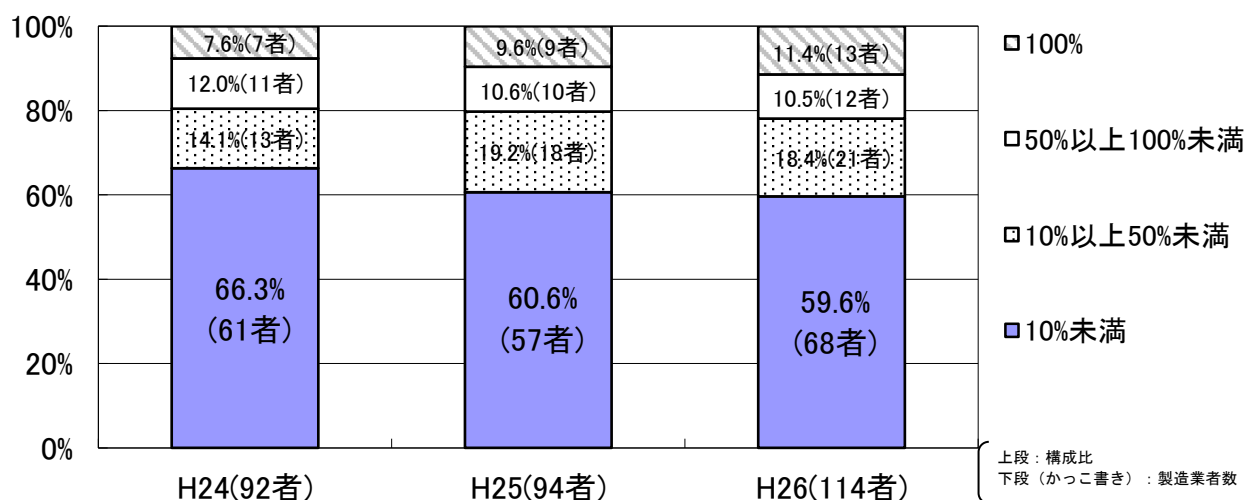
(※2) 資本金3億円以下の法人並びに従業員300人以下の法人及び個人をいう(中小企業基本法第二条第一項第一号)。

(※3) 総売上高に占める発泡酒の売上高の比率である。

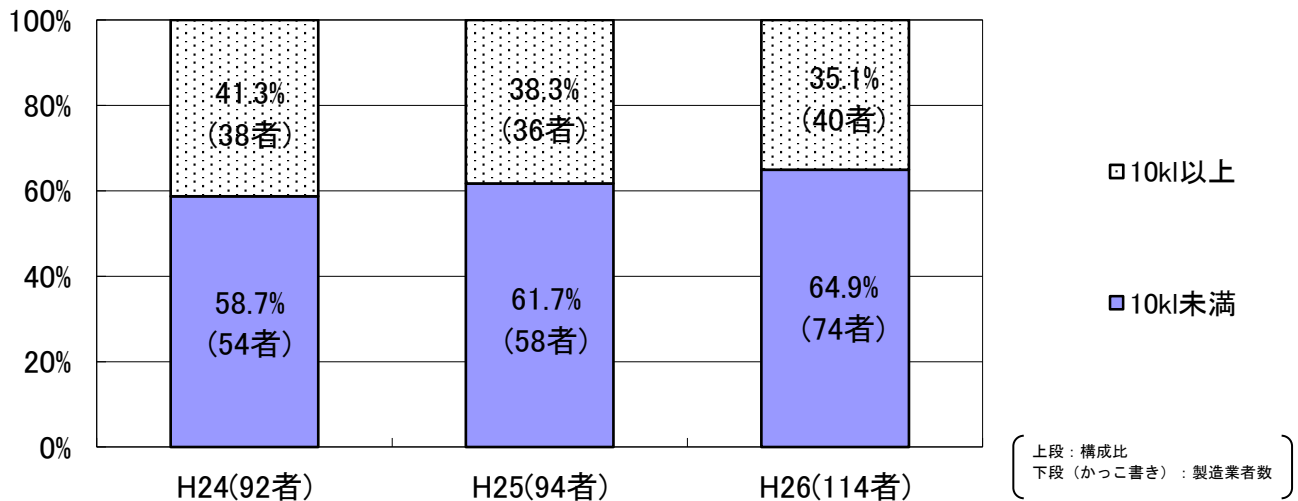
図表11 販売形態別構成比



図表12 専業割合別構成比



図表13 製成数量規模別構成比



(2) 経営状況

発泡酒事業の売上高は、1者当たり24.9百万円(回答者合計で2,840百万円)であり、前年と比較して、1者当たりの売上高が121万円(5.1%)増加している。

営業利益の額は、1者当たり87万円(回答者合計で99百万円)であり、前年と比較して、1者当たりの営業利益額が62万円(41.7%)減少している。(図表14)

図表14 経営状況

(単位：者、百万円)

区 分	企 業 数	売 上 高	売上総利益	営業利益
H24	92	(20.2) 1,860	(8.8) 814	(1.3) 122
H25	94	(23.7) 2,228	(10.3) 971	(1.5) 141
H26	114	(24.9) 2,840	(10.2) 1,168	(0.9) 99

(注)1 発泡酒製造業に係る計数のみ掲げている。

2 かっこ書は1者平均値である。

販売形態別の1者当たりの経営状況を前年と比較すると、レストラン併設では営業利益が増加しており、料飲店チェーン店供給では赤字に転じている(図表15)。

図表15 1者当たり販売形態別経営状況

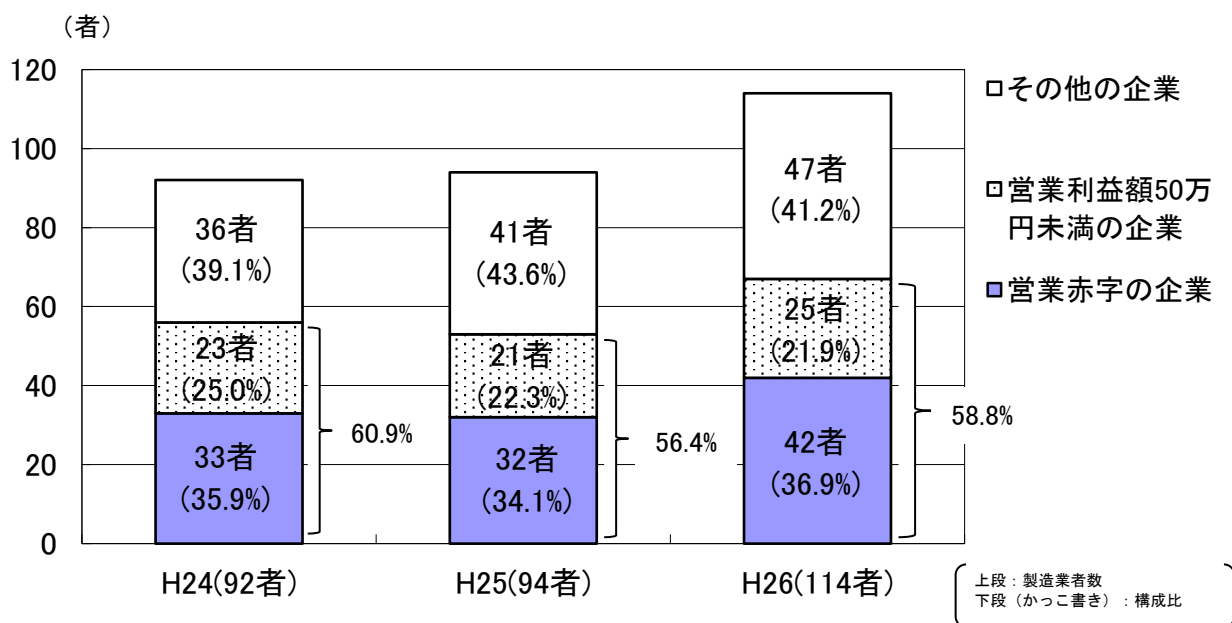
(単位:百万円)

区 分	テーマパーク・物産店・売店等					レストラン併設				
	H24	H25		H26		H24	H25		H26	
			対前年比		対前年比			対前年比		対前年比
売 上 高	3.1	2.6	83.9%	2.4	92.3%	18.1	19.4	107.2%	20.4	105.2%
売 上 総 利 益	2.0	1.4	70.0%	0.8	57.1%	9.3	9.8	105.4%	10.4	106.1%
営 業 利 益	1.2	0.4	33.3%	0.2	50.0%	1.6	1.1	68.8%	1.9	172.7%
区 分	料飲店チェーン店供給					卸売・その他				
	H24	H25		H26		H24	H25		H26	
			対前年比		対前年比			対前年比		対前年比
売 上 高	11.9	13.3	111.8%	11.8	88.7%	29.4	36.7	124.8%	41.9	114.2%
売 上 総 利 益	6.9	8.3	120.3%	6.7	80.7%	10.7	13.5	126.2%	13.9	103.0%
営 業 利 益	1.1	1.2	109.1%	△ 1.6	△ 133.3%	1.2	2.3	191.7%	1.1	47.8%

(注) 発泡酒製造業に係る計数のみ掲げている。

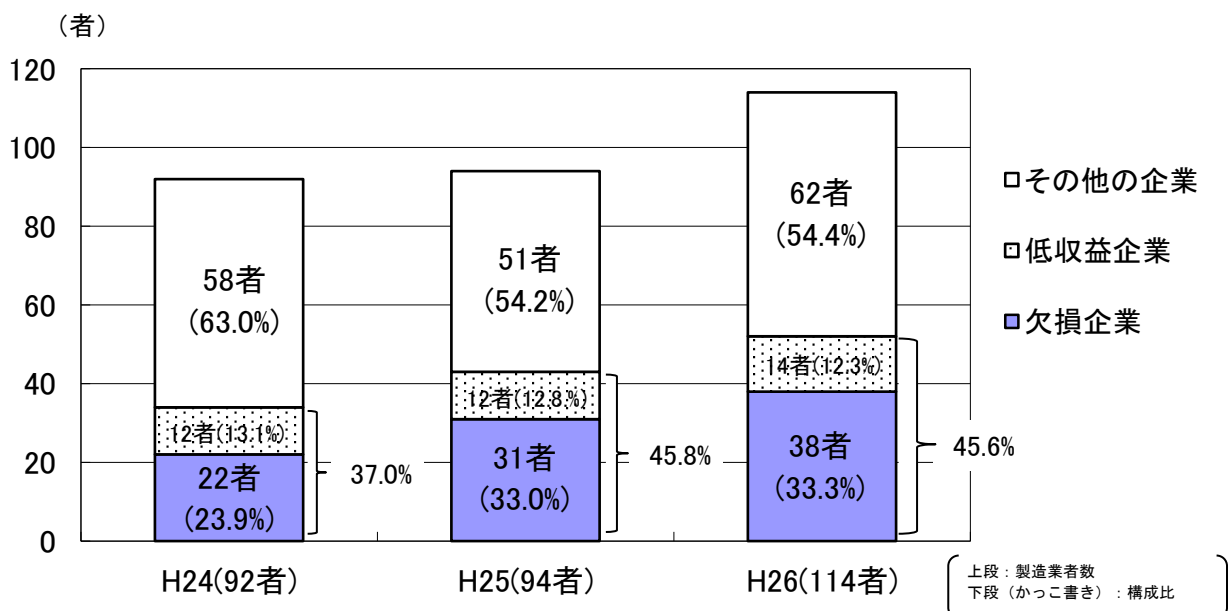
発泡酒事業に係る営業利益をみると、前年と比較して、営業赤字となる企業の割合が増加しており、営業利益額50万円未満の企業を含めた割合も増加している(図表16)。

図表16 発泡酒事業の営業赤字、営業利益額50万円未満及びその他の企業数の推移



企業全体の税引前利益(発泡酒事業以外を含む。)に係る企業数の割合をみると、前年と比較して、欠損企業の割合が増加しており、低収益企業(税引前利益額50万円未満の企業)を含めた割合では減少している(図表17)。

図表17 欠損、低収益及びその他の企業数の推移



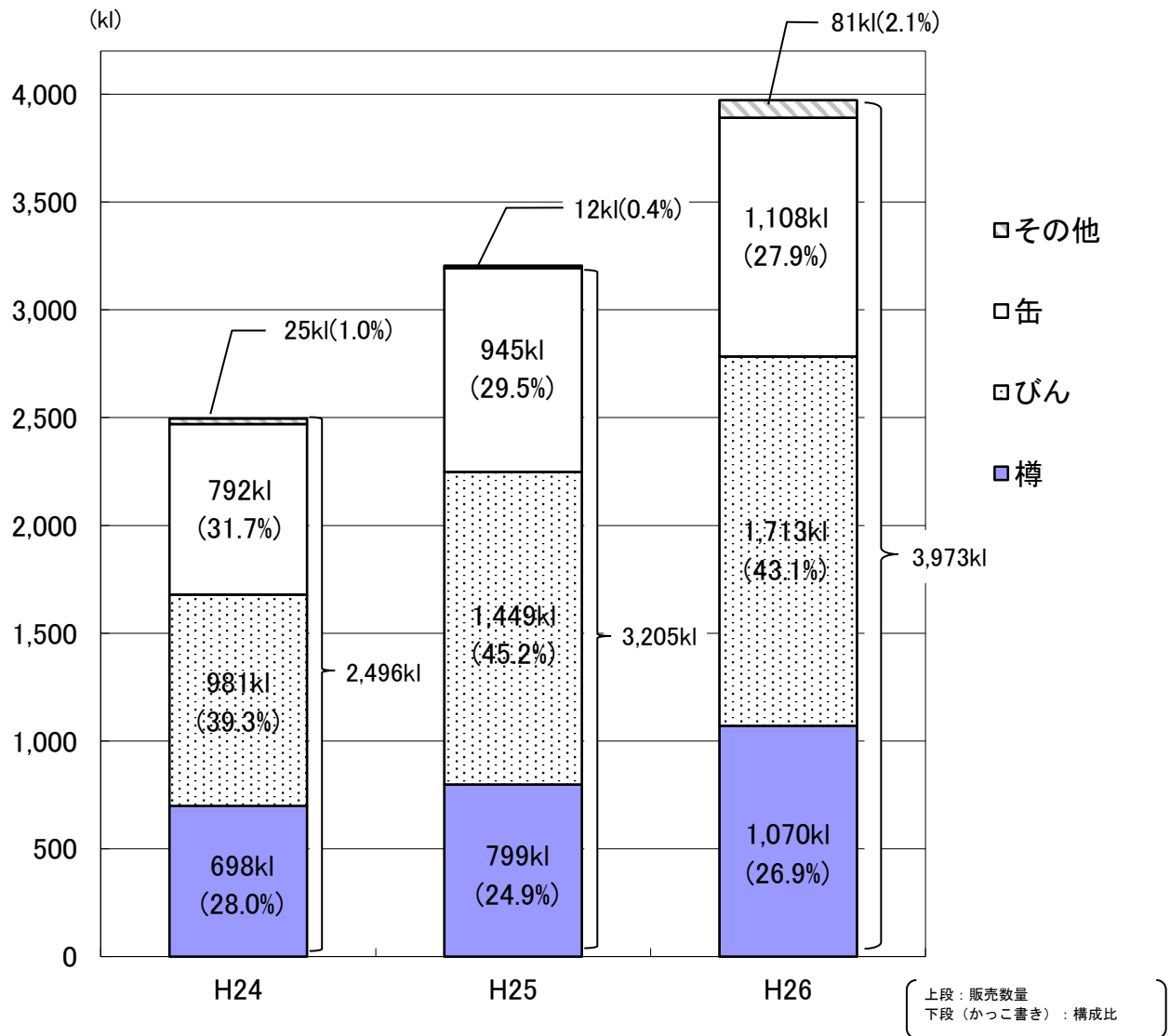
(注) 1 その他の事業部門を含めた事業全体に係る計数である。

2 低収益企業とは、税引前利益額が0円から50万円未満の企業をいう。

(3) 容器別販売状況

容器別の販売状況を見ると、びん製品の割合が全体の43.1%と最も多い割合となっている(図表18)。

図表18 容器別販売数量

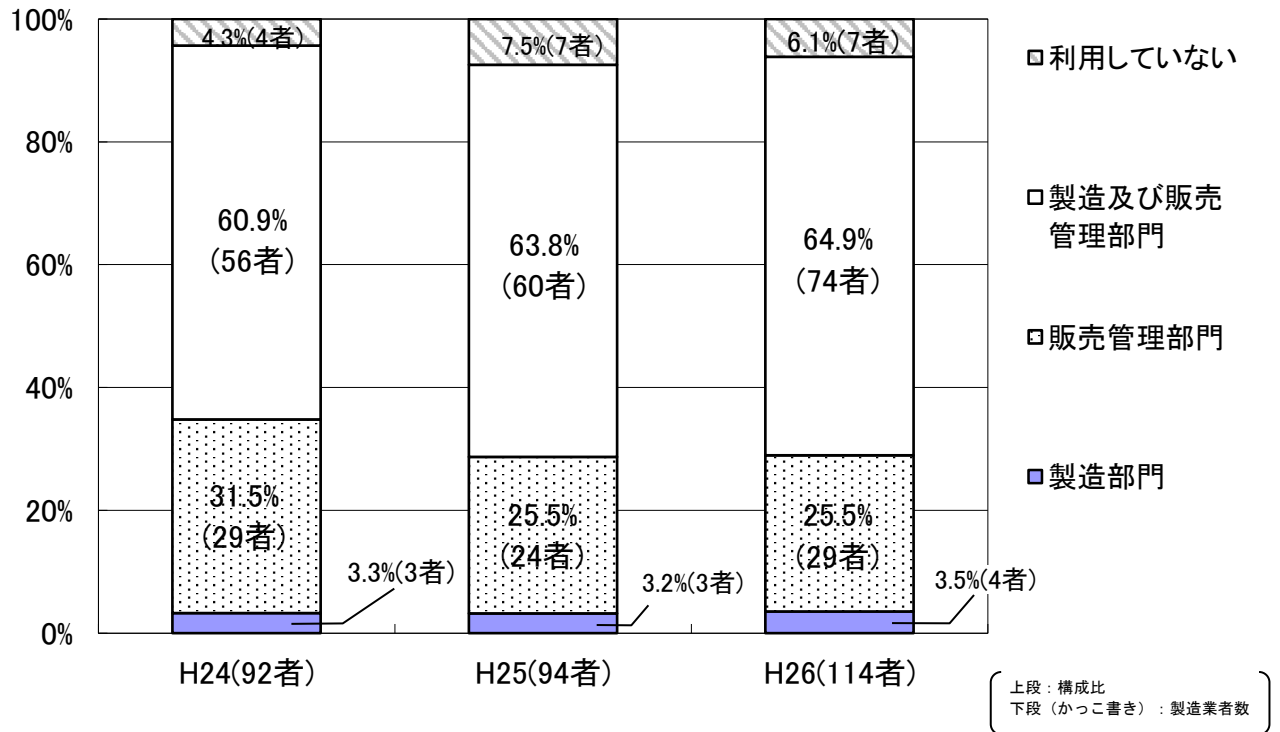


(4) 情報化の状況

コンピューターの利用状況は、製造及び販売管理の両部門で利用している者が、全体の64.9%と、最も多くなっている(図表19)。

ホームページは、90.4%の者が開設している(図表20)。

図表19 コンピューターの利用状況



図表20 ホームページ開設の有無

